

平成29年度 第1回 南区地域福祉アクションプラン推進委員会 会議録

- 名 称 第1回新潟市南区地域福祉アクションプラン推進委員会
- 日 時 平成29年8月1日(火) 午後2時から午後3時25分
- 会 場 白根健康福祉センター3階 多目的ホール
- 出席者 推進委員 [19名]
金子勝委員, 石山和美委員, 牛腸久実子委員, 佐久間栄子委員, 大野朗子委員, 遠藤雪恵委員, 宮崎幸一委員, 長谷川茂委員, 小柳典子委員, 山宮勇雄委員, 児玉正彦委員, 田中順子委員, 登石弘淑委員, 永井正子委員, 柳博明委員, 相田信一委員, 山田ひろ子委員, 金子周永委員, 藤初代委員
アドバイザー 土橋敏孝氏
事務局
【南区健康福祉課】中村課長, 石倉補佐, 呉井係長, 長谷川主幹, 長谷川主幹, 相田係長, 星野主幹, 高木主査, 草間主事
【南区社会福祉協議会】小林事務局長, 竹内補佐, 三浦主事, 田村ボランティアコーディネーター
- 報 道 なし
- 傍聴者 なし
- 次 第 1 開会
2 南区健康福祉課長, 南区社会福祉協議会事務局長あいさつ
3 自己紹介
4 議事
 (1) 平成28年度南区地域福祉アクションプラン評価について
 (2) 土橋アドバイザーからの助言
5 報告及び連絡事項
 (1) 「にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金」審査結果について
 (2) その他
6 閉会

<p>午後 2 時 事務局</p>	<p>これより平成 29 年度の第 1 回新潟市南区地域福祉アクションプラン推進委員会を開催させていただきます。</p>
<p>健康福祉課長</p>	<p>私は本日の進行を務めさせていただきます南区健康福祉課、課長補佐をしております石倉と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日の会議は後で会議録を作成する関係上、内容を録音させていただきます。</p> <p>開会にあたりまして、南区健康福祉課の中村課長よりごあいさつ申し上げます。</p>
<p>事務局</p>	<p>皆さん、本日はお忙しいところ南区の地域福祉アクションプラン推進委員会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は南区健康福祉課長の中村でございます。</p> <p>このアクションプランでの計画というのが地域の支え合いを高めていく重要な事業が数多く盛られていると思います。本日は平成 28 年度の報告が中心になりますけれども、委員の皆様方から忌憚のないご意見等をいただき、また、取組みや課題につきましてはそれぞれの地域の持ち帰り、今後の福祉活動に生かしていただければと思っております。</p> <p>本日はお忙しい中、本当にありがとうございます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>南区社会福祉協議会事務局長</p>	<p>続きまして、南区社会福祉協議会の小林事務局長よりごあいさつ申し上げます。</p> <p>南区社会福祉協議会事務局長の小林と申します。</p> <p>皆様には、日ごろから地域福祉の推進ならびに社会福祉協議会の事業推進にご理解とご協力をいただき、大変ありがとうございます。</p>
<p>事務局</p>	<p>このアクションプランは、今年が 6 年の計画の 3 年目となります。委員の皆様をはじめ、地域の方々や区役所、社会福祉協議会も、アクションプランの基本目標であります「ひととひととがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち」の実現を目指して、さまざまな取組みを行っていますが、目標達成には、住民同士の助け合いや支え合いがますます重要になってくると考えております。</p> <p>社会福祉協議会は地域福祉を推進するという使命をもつ団体ですが、今後もこのアクションプランに沿った事業を展開していきたいと考えておりますので、皆さまからもより一層のご協力と</p>

事務局	<p>ご支援をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>資料の確認をお願いします。本日の会議次第、委員名簿、資料1「南区地域福祉アクションプラン概要版」。資料2「平成28年度南区地域福祉アクションプラン福祉分野別計画進行管理表」。</p> <p>本日配布しました資料3「参考資料」、資料4「にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の概要」と「平成28年度南区にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金審査結果について」1枚。まちづくり探検&新聞づくりのチラシです。</p> <p>不足している資料等ありませんでしょうか。</p> <p>今年度第1回目の推進委員会ということで、簡単に皆さんから自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は根岸地区の委員が委員交代ということで本日欠席となっておりますが、あとはすべて出席されております。</p> <p>それでは順番に、金子委員長のほうから時計回りでお願いします。</p>
金子委員長	<p>私は南区社会福祉協議会の副会長でこの委員会の委員長を仰せつかっております金子と申します。よろしくお願いいたします。</p>
山田委員	<p>子育て支援リーダーの山田ひろ子と申します。副委員長を仰せつかっております。よろしくお願いいたします。</p>
金子委員	<p>新飯田のコミュニティ協議会からきました金子と申します。よろしくお願いいたします。</p>
石山委員	<p>茨曾根のコミュニティからまいりました石山です。よろしくお願いいたします。</p>
牛腸委員	<p>庄瀬地域コミュニティ協議会からきました牛腸と申します。よろしくいたします。</p>
佐久間委員	<p>小林コミュニティ協議会からまいりました佐久間です。よろしくお願いいたします。</p>
大野委員	<p>臼井地区コミュニティ協議会からきました大野です。よろしくお願いいたします。</p>
遠藤委員	<p>大郷地区コミュニティ協議会の遠藤雪恵です。よろしくお願いいたします。</p>
宮崎委員	<p>鷺巻地区コミュニティ協議会からきました宮崎と申します。よろしくお願いいたします。</p>
柳委員	<p>ボランティア団体から参加しています柳博明と申します。よろし</p>

長谷川（茂）委員	くお願いいたします。
小柳委員	大通コミュニティ協議会からきました長谷川といたします。よろしくお願いいたします。
山宮委員	白根コミュニティ協議会からきました小柳です。よろしくお願いいたします。
児玉委員	味方地区社会福祉協議会、会長をやっております山宮でございます。2年目に入りました。よろしくお願いいたします。
田中委員	月潟コミュニティ協議会からきました児玉といたします。よろしくお願いいたします。
登石委員	南区民生委員児童委員会会長連絡会からまいりました田中順子でございます。よろしくお願いいたします。
相田委員	南区老人クラブ連合会の登石弘淑と申します。よろしくお願いいたします。
藤委員	南区連合保健会からまいりました相田信一です。よろしくお願いいたします。
土橋アドバイザー事務局	今年度より参加させていただくことになりました、白根児童センターからまいりました藤と申します。よろしくお願いいたします。
	アドバイザーをさせていただいております土橋と申します。よろしくお願いいたします。
	ありがとうございます。土橋先生におかれましては、引き続きアドバイザーということで、今日ご出席をお願いしております。よろしくお願いいたします。
	傍聴人の方は今日はおられないようです。
	それでは、以降の会議の進行につきましては南区地域福祉アクションプラン推進委員会開催要綱の規定によりまして、金子委員長からお願いしたいと思います。金子委員長よろしくお願いいたします。
金子委員長	これより本日の会議に入りたいと思います。
	本日の会議の目的でございますけれども、2015年から2020年までの6年間の計画で、このような立派な計画書ができております。私どもの福祉の向上のため、私どもの役割といたしまして、この計画がスムーズに進行しているかどうか、うまくいっているかどうかということで評価を行うわけでありまして、平成28年度の取組み内容の説明ということで、説明ならびに評価について皆さん方からご意見をお伺いするものであります。平成28年度の取組みを中心に事務局から説明をしていただく予定ですので、よろしくお願いいたします。

事務局	<p>す。</p> <p>それでは、議事の（１）平成 28 年度南区地域福祉アクションプランの評価について、南区地域福祉アクションプランの概要、会議の目的について事務局から説明してもらって、それから評価等に入りたいと思います。事務局、よろしく申し上げます。</p> <p>健康福祉課地域福祉係の星野でございます。</p> <p>それでは、アクションプランの概要と会議の目的について説明させていただきます。</p> <p>資料 1「南区地域福祉アクションプラン概要版」の 2 ページ目をお開きください。</p> <p>新潟市では、住民にとってより身近な地域の実情を十分にくみ取るため、行政区ごとに計画を策定し、地域住民を主体に地域の福祉に取り組んできた経緯があります。このアクションプランは、市町村が策定する「地域福祉計画」と社会福祉協議会が主体となって地域の生活課題の解決策を見出す「地域福祉活動計画」を、地域の課題や地域福祉推進の方向性を共にしながら、区として一体的に策定したものにご理解いただければと思います。</p> <p>計画の構成としては大きく二つになっています。3 ページ目にあります「分野別計画」、4 ページ目にあります「地区別計画」から構成されています。本日の委員会では、3 ページ目にあります分野別計画の各体系に基づいた内容の審議となります。</p> <p>この分野別計画の体系については、大項目が四つございます。一つ目「児童・子育て支援」、二つ目「障がい福祉」、三つ目「高齢者福祉・介護者支援」、四つ目「地域づくり」とあります。それぞれいくつか小項目が付いています。この四つの大項目ごとに分科会を開催し、皆様からは事前に小項目の取組みについて評価をいただいております。</p> <p>本日の会議の目的は、4 ページに「進行管理と評価体制」と書いてありますが、平成 28 年度に行われた各取組みについて委員の皆様にご報告いたしますので、計画に対して意見をいただくこととさせていただきます。</p> <p>説明は、資料 2 の進行管理表が中心になりますが、今年度から取組みがよりイメージしやすいように、関連した情報などを資料 3 としてまとめさせていただきましたので、資料 2 と資料 3 も併せてご覧いただきながら、ヒアリングしていただければと思います。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
-----	--

金子委員長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>今の説明について、皆様方から何かご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>本日の会議に先立ちまして、四つの分科会で取組みを評価していただいたところであります。ここで、四つの大項目の取組みについて、平成 28 年度の実績および評価について説明をお願いしたいと思います。</p> <p>まず、児童・子育て支援分科会から順にお願いします。</p>
事務局	<p>私は健康福祉課児童福祉係の長谷川と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>児童・子育て支援分科会は7月7日に開催しまして、事前に評価を確認していただいております。それでは児童・子育て支援の取組み内容について説明いたします。</p> <p>資料2の1ページをお開きください。</p> <p>大項目「安心して子育てできるまち」の小項目の一つ目「子育て世帯が孤立しないまちづくりについて」です。</p> <p>取組み番号①南区独自の子育て応援冊子「みんないっしょ」の内容を更新し、アウトリーチ支援の際に活用するとしていましたが、訪問の希望がなかったため、BPプログラムの参加者に配布した数を載せましたので、評価はBとしました。</p> <p>その下の実施内容としては、健診や育児相談会および保健師や助産師による訪問などの機会を利用し、子育てに関する情報を提供しました。こちらの評価はAとしました。</p> <p>次に取組み番号②では、健診や育児相談会、NPプログラム、BPプログラム、子育て広場を開催し、参加することで同世代の子育て中の親同士の仲間づくりにつながっています。こちらの評価はAとしました。</p> <p>BPプログラムについては、予定した回数の開催はできたのですが、参加者数が定員に満たなかったため、評価はBとしました。</p> <p>ここで資料3の1、2ページをご覧くださいと思います。</p> <p>1ページ目はNPプログラム、カナダで採用されている子育て支援プログラム、ノーバディーズパーフェクト「完璧な親なんていない」というプログラムになっています。2ページ目は、先ほど言いましたBPプログラム、「親子の絆づくりプログラム」のチラシを参考で添付しております。</p> <p>取組み番号の最後、子育て支援リーダーによるアウトリーチ支援</p>

については、訪問希望者がいなかったため実施にはいたりませんでした。実施するための研修会を行ったり、アンケート調査も実施したため、評価はBとさせていただきます。

今後の課題等につきましては、BPプログラムが新潟市全市展開の事業となりまして、開催回数が増えて、育児不安や孤立感の解消や母子の愛着形成につながっています。今後も参加への呼びかけやPRが必要であります。アウトリーチ支援については、周知を兼ねてアンケート調査を行った結果では「良い取組みだ」「利用したい」という回答が70パーセント以上ありましたが、実際の申込みがなかったため、引き続きPRを図っていきたいと思っております。

次に資料2の2ページをご覧ください。小項目「地域で支えるゆとりを持った子育てができるまち」についてです。

取組み番号①子育て中の親同士の交流促進、ネットワークづくりでは、NPプログラム、BPプログラム、サロン交流会、子育て広場交流会を開催し、子育て中の親同士の交流促進につながっていますので、評価はAないしBとしました。

取組み番号①の5番目、安産教室への父親参加を継続、家族・地域で子育てにつなげるでは、年3回の安産教室に各回定員15人のところ1回あたり平均11人の父親参加がありました。安産教室や健診などを利用して、父親や家族の育児参加を啓発いたしました。

取組み番号③は1ページ目にもありましたので省略させていただきます。

取組み番号④子育て支援リーダー、ボランティアの育成と活動の支援では、子育て支援リーダーを2名増員できましたので、評価はAといたしました。

子育て広場開催の取組みについては、資料3の3から5ページをご覧ください。資料3の3ページについて、子育て支援リーダーの「子育てオーエンジャー☆みなみ」についての資料を載せております。また5ページは、子育てオーエンジャー☆みなみが味方地区で交流会を企画し、料理を味わいながら子育てや発育状況などを話し合った様子が新聞にも取り上げられました。

今後の課題としましては、現在取り組んでいる子育て支援リーダーによる子育て広場やNPプログラムなどを継続して実施できるよう、リーダーやボランティアがさらに増えるよう育成し、確保することが課題です。また、社会福祉協議会が支援する子育てサロン

<p>金子委員長</p> <p>事務局</p>	<p>同士の交流だけでなく、子育て支援センターを交えた交流も必要と考えております。</p> <p>次に資料2の3ページをお開きください。小項目「子育て支援施設・事業の充実」についてです。</p> <p>取組み番号四つ目までは前のページと重複しますので省略させていただきます。</p> <p>取組み番号③のファミリーサポートセンターによる子育て世帯の支援、事業PRについては、登録会員が増えましたが、提供会員が減少したため、評価はBといたしました。</p> <p>次の④既存の保育サービスの拡充と新たなサービスの検討については、既存の保育事業に対応するために保育士を募集し、保育士の確保に努めていますが、思うように保育士の確保ができない状況です。新たなサービスとまではいけていない現状です。評価は、数値化できないため空欄となっております。</p> <p>⑥のアウトリーチについても前のページにありましたので省略いたします。</p> <p>最後の⑦思春期教育の実施については、白根高校と各中学校で開催しましたので、評価はAとしました。</p> <p>また、子どもが安心して遊べる環境に対する取組み内容としましては、児童館、児童センター、子育て支援センターなどを利用されている方々からの声や施設担当による点検などを基に、利用しやすいように施設の改善を行いました。</p> <p>今後の課題としては、健診や新生児訪問はほぼ全員に実施していますが、育児相談会や子育て支援センター、子育て広場などは希望者の参加になりますので、相談ができずに一人で悩んでいる人がいないようにしていくことが今後も必要と考えています。</p> <p>また、ファミリーサポートについては、会員数は増加していますが提供会員数が減少しているため、依頼会員に向けても提供会員への登録、活動を働きかけていく必要があります。</p> <p>以上で、児童・子育て支援の取組みについて説明を終わります。ありがとうございました。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>続きまして、障がい者福祉分科会からの報告をお願いいたします。</p> <p>健康福祉課障がい福祉係の呉井と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>障がい者福祉分科会は7月10日に開催しまして、事前に評価を</p>
-------------------------	---

確認していただいております。それでは、障がい者福祉の取組みについて説明いたします。

資料2の4ページをお開きください。小項目「福祉サービス利用の相談体制充実」についてです。

課題の、相談支援事業者等の周知のための実施内容は、基幹相談支援センター秋葉を周知する手段として、チラシを窓口を設置したり、相談内容や連絡先等を12月4日号の南区役所だより、9月25日号の社協だよりに掲載いたしました。いずれも目標1回に対して実績1回ということで、評価はAです。

また、相談支援センター秋葉の周知に関する研修会の開催について、2月5日に白根健康福祉センターにて、身近な地域から支援体制につなげるため、民生委員を対象に相談事例を紹介しながら周知の研修会を行い、40人の参加がありました。こちらも目標1回に対して実績1回ということで、A評価としております。

課題につきましては、一般の方々にも相談支援者がいることがあまり知られていないことから、引き続き周知を図っていきたいと思います。

続きまして5ページをお開きください。小項目「障がいのある人と地域が交流できるまち」についてです。

課題の地域の人たちへの障がいに対する理解と地域の受け皿づくりのための実施内容は、南区自治協議会、校長会へ情報発信ということで、地域の行事等で交流の機会を広げてもらうため、自治協議会へ情報提供を依頼し、区内の小中学校長宛てに支援学級の生徒さんへの情報提供を依頼しました。

また、地区社会福祉協議会行事への参加依頼ということで、平成27年度より1地区増えました3地区で昼食会、多世代昼食会を実施しました。

資料3の6ページをお開きください。昼食会の様子について参考で添付しております。

評価については、いずれも目標1回に対して実績1回ということで、A評価としております。

今後の課題につきましても、障がい者が地域の行事に参加できるよう、今後も情報発信に努めたいと思っております。

続きまして資料2の6ページをお開きください。小項目「自立支援体制の充実」についてです。

課題の、地域の課題の解決に向けて話あえる環境の整備の推進の

<p>金子委員長</p> <p>事務局</p>	<p>ための実施内容は、南区障がい者地域自立支援協議会の運営ということで、協議会では平成 28 年度と平成 29 年度の 2 か年で取り組む 6 つの地域課題を抽出しました。この地域課題それぞれ進行管理を行いながら情報共有を行っているもので、年度目標 4 回に対して実績も 4 回開催しました。</p> <p>もう一つ、南区地域福祉ネットワーク会議の運営についてですが、南区保健医療福祉のつながりを深める会で、9 月と 2 月に研修会を開催しました。</p> <p>資料 3 の 7 ページ、8 ページをお開きください。この研修会の案内とチラシを参考で添付しております。</p> <p>在宅医療推進のための他職種連携研修会では、約 110 名、2 月の講演会には 333 名が参加し、それぞれ他業種の横のつながりができ、情報共有ができました。</p> <p>二つの取組みについて、どちらも A 評価としております。</p> <p>今後の課題につきましては、地域の課題等について情報共有を図る必要がありますが、環境の整備に取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>資料 2 の 7 ページをお開きください。小項目「わかりやすい福祉情報の提供」についてです。</p> <p>課題の、障がいのある人が安心して外出するバリアフリー情報が不足しているということで、福祉新聞の発行の検討について検討会を 1 回開催する目標について、1 回実施しました。検討の内容としましては、新聞を発行するためには、だれが作成するのか、予算もなく課題が多くあるという検討結果でありました。評価につきましては、目標数値の回数であげていましたので A 評価としており、今年度で最終判断を行うこととなります。</p> <p>今後の課題の情報の発信方法については、福祉新聞という形だけではなく、研修会や報道機関などへも常に情報発信を考えていきたいと思っております。</p> <p>以上、障がい者福祉分科会の平成 28 年度進行管理の評価の説明を終わります。</p> <p>ありがとうございました。引き続き、高齢者福祉・介護支援分科会の事務局からお願いいたします。</p> <p>私は健康福祉課の相田と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは高齢者福祉・介護者支援の取組みについて説明いたします。</p>
-------------------------	--

分科会は7月5日に開催しまして、事前に評価を見ていただいております。

資料2の8ページをお開きください。小項目「高齢者・介護者を支えあうまちづくり」です。

こちらは課題が3点あります。まず一つ目が地域力の弱体化、人間関係が希薄になってきており、隣近所の様子がわからないという課題があがっております。この取組み内容につきましては、取組み番号①地域からの要望によって地域での見守りを行う取組みを南区社会福祉協議会、包括支援センター、南区役所などで支援をしてまいりました。

茨曽根地区では、認知症の高齢者の行方不明を想定した模擬訓練が行われましたのでご紹介いたします。資料3の9ページをご覧ください。

こちらは、茨曽根地区で行われました模擬訓練の様子が新聞で取り上げられたものです。訓練は、住民、南区社会福祉協議会、警察、グループホームが参加しております。また当課の中村課長も認知症の高齢者に扮して参加しています。この取組みにより、認知症高齢者の徘徊について、地域での声掛けが早期発見や早期通報につながるという意識の醸成を図ることができました。

このほかにも、白根北部地区では、地域での高齢者の見守り体制の構築も動き始めています。

次に課題の二つ目です。こちらは、地域包括支援センターの認知度がまだ低いということで、取組み内容は②となりますが、毎月1回南区だよりに高齢者の相談窓口として地域包括支援センターの情報を掲載しております。このほかにも、地域の茶の間の訪問時やさわやかトーク宅配便開催時に、こちらの包括のPRをしております。また、医療機関や薬局などにポスター、地域包括支援センターをPRするポスターを区内に掲示してあります。

次に、区内スーパーで行う高齢者出張相談会を開催しております。このときにのぼり旗を出してPRしてまいりました。

続いて課題の3点目です。こちらは介護教室の参加人数が少ないという課題に対してです。

取組み番号③です。南区の三つの日常生活圏域ごとに継続して開催いたしました。この三つの圏域とは、①白井・白根北圏域、②白南・白根第一圏域、③味方月潟圏域というエリアになっております。委託先事業所におきましては、実施回数や参加人数の増加に努めま

した。

ここで資料3の10ページをお開きください。昨年7月に開催いたしました家族介護教室の案内になります。講師を招きまして在宅介護の学習会を開催したものです。

ここまでの取組みについての年度評価は、おおむね計画どおり実施をしてきましたのでA評価としましたが、取組み番号④の区、圏域でのケア会議の開催についてですが、圏域ごとでは三つとも実施できましたが、区域、南区としては支え合いのしくみづくり会議の協働体の立ち上げ支援が優先されましたので、南区のケア会議が実施できていませんでしたので、年度評価はCとしました。

今後の課題につきましては、まだ地域力の再構築が求められている中で、一部の地域では何とかしようという動きが見られておりますが、全体的に見ると、まだ互助による助け合いの意識醸成が不足しております。住民主体の見守りや支え合いのできる自治会、町内会をこれからも増やしていく必要があります。

次に、地域包括支援センターの認知度は、まだ不十分な状態です。介護教室も各日常生活圏域で開催できるようになりましたが、参加人数はまだばらつきがあります。内容もニーズにあったものとすることや、開催の周知についての再考が求められていきます。

次に、資料2の9ページをお開きください。小項目「高齢者の健康づくり・介護予防の推進」という項目に対しての活動になります。

課題が2点あります。一つ目は、生活習慣病の予防と早期発見につながる特定健診の高齢者層の受診率、後期高齢者健診や各種がん検診の受診率が低い状況にあります。

二つ目は、飲酒・喫煙率が高く、運動習慣がある人が少なく、生活習慣病の発症が危惧されます。

これに関しての取組み内容①は、健康な高齢者の健康づくりと介護予防の推進のため、地区での健康づくり講座支援をするフォロー講座を実施しました。内容は、ウォーキング講座で、白根健康福祉センターと大通地域生活センターを会場として実施しました。年度評価はAとしました。

また、健診を受けやすくするためにミニドック型集団健診を新しく実施し、特定健診の受診者は増加しましたが、目標値までは達せず、実績は2,971人の受診という目標値の74.2パーセントの達成状況でした。そのため、年度評価はBといたしました。

健康づくりの取組みについては、資料3の11ページをお開きく

ださい。こちらは昨年度のミニドック型集団健診と取組み番号①の三つ目にあります「はかろう体重大作戦」についての取組みが新聞に取り上げられたものです。南区では、糖尿病、高血圧の診療費が比較的高く、区民の健康寿命を延ばすために、健康づくりに関心を持ってもらおうと、いろいろなやり方で鋭意取り組んでいるところであります。事業PRにつきましては、コミュニティ協議会と一緒に実施しました。目標を上回る「はかろう体重大作戦」のカードを配布することができました。

取組み番号②については、おもに保健会で取り組んでいる健康づくりの講演会、元気アップ講座についてです。

資料3の12ページをご覧ください。これは白根地区の中にあります町部第2地区保健会で実施する元気アップ講座の開催案内です。各地区で、このようにおもに体を動かす講座を元気アップ講座として年16回開催しました。また、各地区保健会で健康づくり講演会も実施しており、昨年度は10回開催しています。

年度評価は、計画どおりすすめておりますのでA評価といたしました

今後の課題については、健診受診率を高めるためにさらなるPRが必要です。

生活習慣の改善では「はかろう体重大作戦」を区民全体の取組みとなるよう、今後は学校等を含め区民の皆様へ広く周知をし、参加を呼び掛けていく必要があります。本日私が着ているこのTシャツも、この一環の中で健康福祉課がデザインしたPR Tシャツになっております。職員がそれぞれ自費で購入しまして着用することでPRに努めております。

次に資料2の10ページをお開きください。小項目「認知症の予防と対策」についてです。

課題として、認知症高齢者の増加と認知症の理解があげられています。

取組み内容としまして①になりますが、脳健康教室「楽しく能力アップ塾」を1講座実施しました。これは、年間をとおして22回のコースになっております。講座の参加者のレベルは非常に改善されておりますが、まだ区内全体を見ますと参加者としては少ない状況です。平成28年度は7名の参加者でした。

次に取組み番号②についてです。資料3の13ページ、14ページをご覧ください。

<p>金子委員長 事務局</p>	<p>認知症サポーター養成講座についてのチラシとなっております。各日常生活圏域のケア会議をとおして必要性を理解してもらい、区内で24回の講座を実施することができました。中でも小学校、高校、警察、企業など幅広い範囲で行われているのが特徴となっております。</p> <p>続いて認知症のキャラバンメイト。こちらは認知症サポーターを養成する講座ですが、講師役となる方々をキャラバンメイトと呼んでいます。キャラバンメイト未経験者と経験者との顔合わせを行うことで、認知症サポーター養成講座の円滑な開催につなげました。</p> <p>続いて、平成27年度に地域包括支援センターやボランティアにより、南区で初めて「認知症カフェ」が誕生し、昨年度は継続的に開催されてきました。認知症やその家族の通いの場となっており、ひと月おきに計6回開催されました。</p> <p>この小項目に対する年度評価としましては、おおむね目標どおりに実施できたとしてA評価といたしました。</p> <p>今後の課題についてですが、軽度の認知症も含め、認知症高齢者は確実に増加傾向にあります。地域での見守りや専門職による初期集中支援の対応が求められています。また、認知症カフェの開催も定例化してきましたが、参加者やボランティアの固定化も見られ、これからの運営方法も検討していく必要があります。</p> <p>キャラバンメイトの活躍の場については、連絡会をとおして定期的に検討していきます。</p> <p>それ以外に、より多くの地域の方々にサポーターとなってもらい、認知症を正しく理解していただき、認知症の方やその家族を温かく見守る体制づくりが必要となっておりますので、講座についてより多く開催できるよう今後も努めてまいります。</p> <p>平成29年度の項目としては平成28年度と同様の取組みをしていきますが、今の課題についてはそれぞれに反映させながら進めていきます。</p> <p>以上で高齢福祉・介護者支援の分科会からの説明を終わります。どうもありがとうございました。それでは、地域づくり分科会の事務局からお願いいたします。</p> <p>南区社会福祉協議会の田村でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>地域づくり分科会は去る6月28日に開催しまして、事前に評価を審査いただいております。</p>
----------------------	---

資料2の11ページをお開きください。

取組み番号①ボランティアルームの利用方法及び利用性の向上につきましては、ボランティアセンターの利用連絡会の開催について、年1回の目標に対して年2回実施し、白根健康福祉センターのボランティアルームの活用については、利用団体との調整を随時行っております。平成28年度、音声訳ボランティアの活動拠点がボランティアルームとなったことでボランティアルームの活用人数が多くなりました。よって、評価につきましてはAといたしました。

次に取組み番号②ボランティア情報誌の発行ですが、年1回の目標に対して、同じく1回発行することができました。これにより、ボランティア・市民活動センターの取組みを広く広報することで、ボランティア活動の啓発に成果がありました。よって、評価はAとさせていただきます。

広報については、資料3の15から16ページをお開きください。カラー刷りでA4サイズのこのような情報誌を各センター、学校、いろいろな関係機関に年1回、500部印刷しましてお配りいたしました。今年度平成29年度は2回発行する予定でございます。

次に取組み番号③ボランティア団体（代表）の交流会開催による情報集約、連携体制構築については、年1回の目標に対して同じく年1回開催いたしました。これにより、ボランティア団体の情報共有、連携体制の構築などの成果がありました。よって、評価はAとしました。

次に取組み番号④講座、研修会（公民館主催を含む）の中で紹介につきましては年4回の目標に対して年6回開催いたしました。これにより、新たなボランティア団体の発掘やボランティア登録などの成果がありました。よって、評価についてはAといたしました。

次に取組み番号⑤区内小中学校の総合学習の時間を利用した福祉教育の推進・企業向け福祉教育については、年16回の目標に対して年20回開催いたしました。これにより、学校での福祉教育は子どもへの福祉への関心を深めることができました。また、子どもだけでなく大人への福祉教育を年2回行うことで、幅広く福祉教育に関する理解を得ることができました。よって、評価についてはAといたしました。

取組み番号⑥災害ボランティアセンター設置訓練を開催、災害ボランティアセンター検討委員会開催については、年12回の目標に対して訓練は年2回、検討委員会は8回行いました。これにより、

有事の際のつながりやボランティアセンターの必要性を、地域の方や会場となった白根高校の生徒の皆さんにも周知することができ、成果がありました。回数による評価ということでは、検討会の少し回数が少なかったのでBとさせていただきます。

それぞれの取組みと成果については以上ですが、今後の課題につきましては、ニーズに合ったボランティアの育成や災害ボランティアセンターの幅広い周知という課題が残っております。研修会や訓練を行い、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

なお、今年度の災害ボランティアセンター設置訓練の予定としましては、11月に味方地区で開催する予定となっております。

災害ボランティアセンターは、ボランティアをする人だけが集まる場所ではないということで、災害時の困りごとを相談できる場所ということについても周知していきたいと思っております。

以上でボランティア関連の説明を終わります。

引き続きまして資料の12ページ、地域の茶の間・ふれあいいいきサロン活動の支援についてお話いたします。

取組み番号①②各種講座やサロン交流会及び研修会の実施ですが、交流会および研修会それぞれ年1回の目標に対して同じく年1回開催いたしました。交流会においてはサロン同士の情報交換、南区で活動しているボランティアの活動を情報共有するといった成果がありました。研修会では、平成29年度からの助成申請について、平成28年度の報告書の書き方についての説明を行いました。よって、評価についてはAとしました。

次に取組み番号②男性を対象にした交流会の開催ですが、年2回の目標に対し、実施をいたしませんでした。これは、在宅介護をしている男性を対象とした交流会を目的としておりましたが、介護をしていらっしゃる男性自身に自由な時間がないことなどさまざまな課題があり、交流会の内容について、男性を中心に地域の方との交流ができるような内容変更の検討を平成28年度は行いました。評価としましてはDといたしました。

次に取組み番号③南区サロン・お茶の間マップを年1回社協だよりに掲載、サロン活動内容の広報、各お茶の間（サロン）会場に冊子を設置し、随時内容を更新について、目標では広報誌掲載と冊子内容の更新を図る予定でしたが、社協広報誌にサロン活動団体一覧を掲載しましたが地図を載せることができませんでした。冊子内容更新は実施しておりませんが、活動内容の一覧表を掲載した実績が

ありますので、評価をDとしておりましたが、Cに変更させていただいております。

参考資料2の17から18ページをご覧ください。社協だよりの下の欄に子育てサロンといきいきサロンの一覧表を載せることができました。

次に取組み番号④地域に合った茶の間づくり支援について、未設定の目標に対して4か所の支援を行いました。定期的に地域の方が集まる場ができたことで、近隣同士で声を掛け合うことができ、保健士や地域包括支援センター等の協力もありました。人数と開催日がある程度確定した団体については、平成29年度から助成申請することが決まりました。よって、評価についてはBといたしました。

次に取組み番号④常設型モデルハウスの設置について、1か所の目標に対して予定どおり1か所開設いたしました。市も各区1か所ということで取り組んできていましたが、南区では1月12日にオープンしております。モデルハウスの概要については、資料3の19から21ページをご覧ください。評価についてはAとしました。

資料3の19から20ページは、天昌堂の概要が記載されたチラシです。21ページには開設時の様子についての新聞記事を添付しておりますので、これもご覧ください。天昌堂では、お茶の間として週2回の開催を継続し、延べで約700人程度の参加があったと伺っております。地域のお年寄りを中心とした居場所づくりとしての成果があったほか、支え合いのしくみづくりを進めるうえでの拠点としての機能をはたしております。

最後に、取組み番号⑤世代間交流会の開催についてのお話をさせていただきます。年2か所の目標に対して社会福祉協議会としては実施していなかったのですが、地域のお茶の間活動の中では6か所ございました。また、各地区社会福祉協議会においても、定期的に世代間交流をされていると聞いております。よって、社会福祉協議会がやったということに対しての評価はDといたしました。

それぞれの取組みと成果については以上ですが、今後の課題等につきましても、既存サロンの参加人数の減少、継続例、男性を対象にした交流会の開催という課題がありますので、定期的なサロン訪問や、地域や関係機関との情報収集などを引き続き取り組んでいきます。

以上で地域の茶の間のいきいきサロン関係の説明を終わります。あ

事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>南区総務課安心安全係の立川と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>資料2の13ページをお開きください。災害時要援護者支援体制の充実について説明させていただきます。</p> <p>取組み番号①各自主防災会での防災訓練における要援護者支援訓練の実施ですが、各自主防災組織の訓練実施率が年40パーセントの目標に対しまして、23の自主防災会、これはコミュニティ協議会単位の自主防災会も含まれますが、その中で14の自主防災会で実施したということで60パーセントとなりました。</p> <p>要援護者支援訓練については、市の「推奨訓練」になっておりますけれども、各地域における自主防災訓練での実施率については、年度によってばらつきがあるように思います。区のほうでは、区の総合防災訓練で、必ず要援護者訓練を取り入れるようお願いしておりますけれども、各地域独自の自主防災訓練に取り組んでいただければ、今後も啓発していきたいと思ひます。</p> <p>評価につきましては、目標値を上回ったということでAとさせていただきます。</p> <p>同じく取組み番号①災害時要援護者支援者名簿と災害時要援護者登録対象者の確認ですが、対象者の確認を全自治会に対して要請する目標に対し、昨年12月の名簿更新の際に、各自治会、町内会、自主防災会に、名簿をすべて差し替えてマニュアルと共に送りまして要援護者の確認をお願いしたというところがございます。よって、評価についてはAとさせていただきます。</p> <p>同じく取組み番号①地域の災害時要援護者登録対象者への意識づけですが、自治会、町内会長の研修会で年1回行う目標に対して、同じく1回行いましたので、評価はAとさせていただきます。</p> <p>取組み番号②高校生防災ボランティア育成研修会の開催ですが、白根高校の生徒さんに対し年2回行う目標に対して、1、2年生を対象に2月に1回、3年生を対象に1月に1回と、計2回実施させていただきました。白根高校については、防犯のみならず、地域防災の担い手として、引き続き実施していきたいと思ひます。今年度も同様の時期に計画いたしております。評価につきましては、目標値を達成しているということでAとさせていただきます。</p> <p>それぞれの取組みと成果については以上ですが、今後の課題等につきましては、役員交代時の引き継ぎがしっかりとされていない</p>
-----	--

金子委員長	<p>というケースが見受けられますので、引き続き説明会、防災訓練などの機会に自治会や自主防災組織に確認していくことと、要援護者の支援訓練については、区の総合防災訓練にも必ず取り入れるなど、引き続き取り組んでいきたいと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>ただいま各分野の小項目ごとに、各分科会から取組み内容、評価の報告がありました。案内チラシとか新聞記事等も使いながら詳しく説明していただいたところです。</p> <p>皆さまから、ご質問、ご意見等があればお伺いしたいと思います。</p> <p>この取組み内容について、目標の数値はどうか、評価はこれでいいのかとか、何でもけっこうでございますので、ご発言をお願いしたいと思います。</p>
山宮委員	<p>山宮委員、何かございませんか。</p> <p>味方コミュニティ協議会の山宮でございます。</p> <p>私も分科会でこの評価について勉強させていただいて、視点をどのようにとるかということが非常に難しいところだと感じております。</p> <p>プランを立てて、実行すればそれで評価としてはいいのではないかとこの考え方もありますし、実行するだけではなくて、具体的な効果として何が見えたのかというところまで掘り下げるという視点もあるわけです。</p> <p>とりあえず私は、今の段階では、Plan、Doで、ここに載せたものをやりました、予定した程度の方々は集まりましたということであればA評価でよろしいのではないのでしょうか。というような意見を申し上げました。段階的にいろいろなレベルのものを組んでいくかと思いますが、例えば、地域包括ケアシステムということが前からいわれてやってきたのですが、それもなかなかはっきりと見えない、まだ周知されていないという状況がございます。</p> <p>そういう状況の中で、進行管理をやっていくことは非常によろしいことだと思います。とにかくやりましょうと言って職員の方々、関係者の方々、頑張っていていただいているわけですから、このことは非常に有意義なことだと思って、今回の説明を聞かせていただきました。</p>
金子委員長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>ほかに何かございますでしょうか。もしなければ、質疑なしとい</p>

<p>土橋アドバイザー</p>	<p>うことで、意見交換を終了させていただきたいと思います。</p> <p>続きまして土橋先生から総括としてご助言をいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>土橋でございます。</p> <p>今ご報告を聞いておまして、皆様方、分科会に分かれて参加していただいて、その結果、報告としてここに出されたわけですので、私から何とも言いようがないかと、本当に頑張っている成果を上げているのではないかと思います。</p> <p>そういう意味では、目標値を掲げて、それをどれだけ達成したかということでの評価は、今日、報告されたとおりでいいのではないかと思います。</p> <p>今、山宮委員がおっしゃったように、質の評価というところではどのように考えるべきなのかというところでは、今回は課題のほうに上がってきているので、その課題はこれからに向けて解決していくための取組みが必要であろうと思いました。</p> <p>評価というのはいろいろあるわけですが、実際には、量的なものをどうこなしたかということも大事ですが、質的にどうなのかということは、裏を返せば、今、地域包括ケアシステムの話が出ましたが、一人暮らしがこれから増えていく、認知症の人たちが増えていく可能性がある、そういうような現実も、5年後、10年後の状況というものをどのようにとらえて今この計画を実施し、実行していくのかと考えたときに、果たして間に合うのかというようなことも含めて考えなければいけないのだらうと思うのです。</p> <p>もう一つは、参加してくださる一般の市民の方々は自主的に主体的に動いてくださる方々であろうと思うのですが、そういう方々をどう組織化して自らの力で動いてもらっていくのかということは、これから考えなければならない大きな課題ではないかと。男性のサロンへの参加ということも含めて、こちらが引っ張り出して連れてくるというやり方ではなくて、主体的に男性が参加してくるような仕組みづくりをどう考えていくのかということが必要ではないか。</p> <p>今まで、サロンを作って男性に主体的に参加してもらうためには、やはりその人たちに役割があるような仕組みづくりというものが求められているわけです。男性は、社会で、組織の中で働いてきて、一旦辞めてしまえば趣味も何もない、普通の人になるわけです。そういう人たちが実際に、ただ単にさっとサロンに来て毎日一日過ごしているということはまずできないので、やはりそこに行くには</p>
-----------------	--

目的があって行くということをちゃんと作り出していないと、参加というのはおぼつかないのだろうと思いますし、今ここに出てくる一人暮らし、孤独死、その問題がこれから非常に大きくなってくだろうといったときに、出て来ない人、今日ここで報告されたいろいろな行事の中に参加してくる人は問題ないわけです。その人たちはどこかでつながっていますから、何とか見つけることもできる。けれども、実際の見つけられない人たちというのは、どこにもかかわろうとしない。そして病気を持っているかもしれない。そういう人たちに対して、どういう手立てを取っていくのか。

災害の訓練ということをとおして、そういう要援護者の把握、地域の方々の支え合いをどのようにその人たちに対して作っていくのかということをやっている中で、もう少し地域の支え合いの力、レベルを上げることも可能ではないかと思しますので、そういう災害訓練を含めて、安全安心の確保ということをきっちりと地域の中でやっていくということは必要かと思います。

世代間の交流ということも行われていますけれども、やはりこれからの時代、いろいろな人たちが参加して、自分たちのまちづくり、自分たちの地域の、豊かな地域づくりというものをどのようにやっていくのかということは、この役員の皆様方と当事者だけというのでは少し淋しいので、どれだけ一般の方々に参加していただくか。例えば障がいを持つ人たちとの関係も、障がいを持つ人たちに出て来ていただいて行事に参加していただくと同時に、役員だけが参加して、よかったということはないはずなのです。一般の人たちをどう巻き込んで障がい者理解につなげていくかということのを常に考えて取り組まないと、結果としては、本当に、例えば仲間うちで集まってよかったというところで終わってしまう恐れがあるので、ぜひ、その当事者の声を聞きながら、生かしながら実践をしていってもらえるとありがたいと思います。

そういう意味で、皆さん方のご努力が報われつつあるということをお聞きして感じていました。秋に地域の活動がなされると思しますので、地域の活動報告をお聞きしながら、どれだけ実施がされたのか、また、どれだけ地域が豊かになったかということが理解できるかと思っていますので、楽しみにしております。

それからもう一つ、私がいつも気になっているのは、ボランティアも含めてですが、一般の人たちにお願いをして、いろいろなことを組んでやっていくときに、その人たちと一緒に働いて専門家

金子委員長	<p>の役割というものをもう少しきちんと確立していくということと同時に、そういう専門分野の人たちをどのように養成していくのか、リーダーのようなものですけれども、そういう方々をどうやって育てていくのかということも含めて、みんなで考えていてもらいたいと思います。素人だけで何かを作り上げようというのは、ものすごく大変なことなのです。そこに、そのことを承知している専門家が一人入ることによって、すごい発展をすることができるわけで、その辺のことをどのように今後考えながら活用していくのかということ、ぜひ考えていただけるといいかと思います。</p> <p>ぜひ社会福祉協議会もNPOづくりを進めてもらえるといいかと思います。</p> <p>以上、評価させていただきました。失礼しました。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>貴重なご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。</p> <p>先生に対して何かお聞きになりたいことがございますでしょうか。</p> <p>今は特にないようでございますので、今ほど先生からいただきましたアドバイスにつきまして、今後の進行管理等に生かしていただければと思っております。土橋先生、どうもありがとうございました。</p> <p>それでは次第の5番、報告及び連絡事項というところでございます。</p> <p>(1)にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金審査結果についてということで報告をお願いします。これにつきましては、去る5月12日に審査会を開いて決定したものでございます。事務局、お願いします。</p>
事務局	<p>事務局の健康福祉課地域福祉係の高木と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>まずはじめに、平成29年度にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の概要について説明させていただきます。</p> <p>お手元にごございます資料4をご覧ください。</p> <p>この補助金は、地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づき、地域が抱える福祉課題や住民課題の解決に向けた活動を行う団体に対して助成を行うものです。</p> <p>補助額は、1事業年間20万円が限度となっております。</p> <p>補助対象経費についてですが、記載されております報償費から光</p>

	<p>熱水費までが対象となります。</p> <p>補助期間は最長で3年間ですが、補助の見直しがありまして、今年度は全市で新規募集はしませんでした。当該補助事業の申請受け付けは継続分のみとし、今後は類似の補助事業に統合する予定となっております。</p> <p>それでは裏面、審査結果およびチラシをご覧ください。</p> <p>平成29年度南区にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の審査結果についてご報告させていただきます。</p> <p>2年目の継続申請分が1件ございまして、5月12日に当推進委員会の金子委員長、山田副委員長を含む5名の方から審査員になっていただきまして、審査会を開催し採択されました。この事業につきましてご報告いたします。</p> <p>「特定非営利活動法人まちづくり学校」による「地域ふれあい発見発信！まちたんけん&新聞づくり」です。事業の概要ですが、今年度は8月8日に小学生の親子を対象に、白根地区でまちあるきガイドを受けながらまちの魅力を見つけ出す「まちたんけん」と、魅力を多くの人に伝える「新聞づくり」が行われます。大人も、子どもと一緒に自分の暮らすまちの魅力に気付いて愛着を感じてもらう内容となっております。「しろね大風タウンガイド」のボランティアが事業の企画からかわり、まちあるきのガイドを行います。</p> <p>こちらは、児童子育て支援の目標「安心して子育てできるまち」および地域づくりの「私たちが支え合い助け合うまち」に該当します。</p> <p>以上で、にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の審査結果について、説明を終わります。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>ただいま、にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の審査結果について報告がありましたが、何か質問等ございましたらお願いしたいと思います。</p> <p>ないようでございまして、その他ということでございます。皆様方から何かございますでしょうか。</p> <p>事務局はいかがでしょうか。</p> <p>それでは、事務局から3点ほど、連絡させていただきます。</p> <p>1点目、第2回推進委員会の開催ですが、2月を予定したいと思っております。また、その前段に、各分科会で平成30年度の進行管理について意見交換をいただき、推進委員会で報告する予定となっております。</p>
金子委員長	
事務局	

	<p>りますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>2点目、昨年度、福祉マップの作成について各部会からお一人ずつ検討委員会に入ってください、ご意見等をいただきました。現在、マップについては意見を参考にしながら児童、障がい、高齢介護の関連施設、その他として避難所、トレイのある公園など、主に公共的な福祉施設を中心に作成中であります。ゲラができましたら、検討委員会の方々に1度見ていただき、その後に若干の修正を加えて印刷製本していきたいと考えておりますので、その節はなにとぞよろしくお願いいたします。</p> <p>最後になりますが、本日の会に出席いただいた公職以外の委員の方々の報償費についてですが、9月末までに届出の口座に税を差し引いてお支払をさせていただきますので、10月以降に口座をご確認いただければと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>今回の会議は来年2月ということで、その前に分科会を開くというようなお話がありました。平成30年度の分野別計画だけではなく、社会福祉協議会が主になっております各12地域の地域別の福祉活動計画、これの進捗についても各地区から上げていただくと考えております。</p> <p>それでは、本日、議事も終了いたしましたので、会議の進行を事務局にお返ししたいと思います。スムーズな進行をさせていただきました。大変ありがとうございました。</p>
金子委員長	<p>長時間にわたりまして、大変ありがとうございました。</p> <p>本日いただきましたご意見、土橋先生からいただきました貴重なアドバイスを踏まえまして、今後のアクションプランの推進に生かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>これで予定したものがすべて終了となりました。大変ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。</p>
事務局	